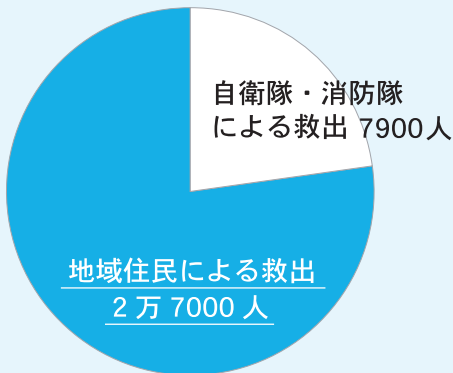




地域の命は

地域で守る！

▲阪神・淡路大震災の様子(兵庫県神戸市提供)



▲図1 阪神・淡路大震災の要救助者割合
出典 河田恵昭(1997)「大規模地震災害による人的被害の予測」自然災害科学Vol.16、No.1、pp.3-14より

阪神・淡路大震災で要救助者の
約8割が地域住民に救われた！

阪神・淡路大震災で救助が必要であった約3万5000人のうち、警察、消防、自衛隊によって救出された人が7900人であるのに対し、全体の約8割に当たる2万7000人の人が地域住民によって救われました。

近年、日本全国では、さまざまな種類の自然災害が発生しています。
個人だけで万全の備えをすることは難しく、近隣で互いに協力し合える地域づくりが求められています。

危機管理課 ☎(45)6320

共助 のススメ

自分だけではなくー。
家族だけでもないー。
地域で支え合う！

いざというとき一番の頼りは
地域の人

共助とは、町内会や自治会などの小さな地域コミュニティ単位で、災害時に向けた助け合い体制を構築することや、災害発生時に実際に助け合うことです。

災害発生時には、地域自治体や消防、自衛隊などからの「公助」と呼ばれる公的支援が行われますが「すぐに」「すべての地域へ」は届きません。特に大規模な災害が発生したときは、全体の被害状況の確認をした上で、最も被害の大きい場所に人員が集中します。

つまり、すべての被災地域に支援が届くまでには一定の時間が必要となるのです。

災害医療分野においては、生死

を分けるタイムリミットとされる「72時間の壁」というものが存在します。救護活動は時間との勝負で、災害の発生直後には、すぐに現場に向かうことのできる地域の人たちが最も頼りになる力なのです。

広域の災害が発生すると、道路は通行止め、鉄道なども動かなくなり、自宅に帰ることができなくなるかもしれません。そんな時に自宅周辺に、家族全員が頼りにできる人はいるでしょうか。また避難所に地域住民が集まったときに、あなたの家族の安否確認を行ってくれる人は何人いるでしょうか。

あなたがどんなに強い大人でも、自宅の屋根が崩れてきたら、あなたが助けられる側になります。自分や家族が困難な状況に陥ったときに、頼りになるのは近隣に住む人たちなのです。



▲兵庫県神戸市提供

地域のイベントに参加し 顔見知りの関係をつくろう

大府防災ボランティア代表
深谷 友造さん



10年以上、共和西自治区を中心に地域の防災意識の向上などに努めています。共和西防災ラリーへの参加者は年々増加しており、地域の防災意識が高まっていることを感じます。

防災訓練のような地域のイベントに参加することは、いざというときに顔が見える関係を築くことにもつながります。今後発生するであろう南海トラフ大地震に備え、助け合いができるまちが市内各地域で形成されていくと良いと思います。

TOPICS

長野県北部地震に見る 共助のチカラ

平成26年11月22日22時8分頃、長野県北部を震源とするマグネチュード6.7、最大震度6弱の長野県北部地震が発生しました。地震の激しい揺れにより長野県では全壊家屋50棟、半壊家屋91棟、負傷者46人の被害がありました。地域住民の助け合いによる救助活動の取り組みにより、倒壊家屋の下敷きとなった方がいたものの、犠牲者を出すことはありませんでした。発生直後、白馬村神城堀之内地区では、地域住民や消防団員などが協力しあい、警察や消防による活動を待たずに地区内を巡回し、倒壊家屋の下敷きとなった方の救助活動や、高齢者の方などに対する避難支援などを行っていたそうです。

この地区でこうした行動がとれたのは、日ごろから行事や活動を通じて、地域間のコミュニケーションがよく図られており、協力しあう関係を築いていたことや、消防団の活動などで防災に対する意識を持っていたことなどが要因として挙げられます。

防災訓練 のススメ

防災への第一歩！
地域の防災訓練に参加して、
自助力と共助力を UP

防災体験を通じて 自然と交流が生まれる

共和東自治区防災訓練では、応急担架づくりや、ダンボール間仕切りづくり、仮設トイレづくり、非常食の試食などさまざまな体験イベントが行われました。また、県の家具固定推進委員が訪れ、地震の備えになる家具固定の説明を行ったほか、市職員による講演も行われました。

親子で防災訓練に参加した平田聡（32歳）さんは数カ月前に市外からこの地区に引っ越してきたばかり。「回覧板で防災訓練があることを知り、住んでいる地区の防災状況を確認したくて、参加しました。応急担架や間仕切り、仮設トイレなど、これまであまり見たことないものがいっぱいあり、参加できてよかったです」と笑顔を見せました。防災訓練が行われた東山公民館では、参加者同士が一緒にになって体験を行うことで、交流が生まれ、会話が弾んでいました。これからの時期、市内各所では、防災のイベントが行われます。皆さんもイベントに参加して、防災の知識を深めるとともに地域とのつながりも深めてはいかががでしょうか。

地域の行事を大切に 地域間での絆を深める

共和東自治区区長
来島 嘉彦さん



災害時など有事のときには、ご近所同士の助け合いが大事です。で、共和東自治区では、防災訓練をはじめとした地域の行事を大切にしています。普段から、地域のパトロールや通学する小学生とのあいさつ、ハイタッチ運動を通して子どもやその家族とのつながりを持つようにしています。こうした活動が続いていくことで、地域間のコミュニケーションが良くなっていくとうれしいです。

大規模災害時に頼りになるのは

あなた！

防災士の資格取得助成

防災士とは、NPO法人日本防災士機構が認証する民間資格で、権限や義務はありませんが、災害発生時には、避難誘導・救助にあたるのが期待されています。

市では、防災士の資格取得に要した費用を助成しています。

防災士の資格所得の詳細は、NPO法人日本防災士機構のホームページをご覧ください。

■防災士資格所得助成の概要

▼対象

- 次の①～③のすべてに該当し、防災士として認証された日から起算して1年以内に助成金の交付を申請した方
- ① 市内に住所を有する方または市内に通勤もしくは通学している方
 - ② 防災士として市内の自主防災組織または市の防災力向上のための活動をする意思のある方
 - ③ 市税を滞納していない方

自分のことは自分で守る自助力や近隣に住む人たちと協力して守り合う共助力を高めるためには、地域で行われる防災訓練などに参加すると良いでしょう。防災訓練では、災害時に実際に使われる防災用品などの体験ができるほか、その地域の防災に関する活動などを確認することができます。

このページでは、共和東自治区で行われた防災訓練の参加者の声や共和東自治区区長のインタビューをご紹介します。

何気ない日常から防災力UP

共助力を高めよう

地域防災力を高めるためには、近隣に住む人たちと顔の見える関係を築くことが重要です。一見、防災対策とは関係のないように思えるごみゼロ運動、運動会、盆踊りなどの地域のイベントへの参加や、近隣であいさつをするだけでも、地域住民同士のコミュニケーションが図られて、地域防災力の向上につながります。

「地域の命は地域で守る！」を合言葉に今一度、地域へのイベントやご近所との関係について関心を持ってみてはいかがでしょうか？



共和東自治区防災訓練の様子



(写真上) 応急担架づくり

(写真左) ダンボール間仕切りづくり

(写真左下) 仮設トイレづくり

(写真下) 非常食の試食



▼助成対象経費

- 防災人材育成研修「防災・減災力レッジ」など、NPO法人日本防災士機構が認証した研修機関による研修講座の受講料およびテキスト購入費
- 防災士資格取得試験受験料
- 防災士認証登録申請料

▼助成金の額

助成対象経費の合計額で1万1000円まで

▼助成の申し込み

防災士資格取得費助成申請書と次に掲げる(1)～(4)の書類を持参の上、危機管理課へ。

- (1) 防災士証の写し
- (2) 助成対象経費の支払いを証明する書類
- (3) 誓約書
- (4) その他市長が必要と認める書類

▼その他

防災士資格取得費助成申請書と誓約書は、市ホームページおよび危機管理課に用意しています。詳細は、危機管理課へお問い合わせください。